

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 28 年 6 月 11 日

所属部局・職	野生動物研究センター・修士課程学生
氏名	野本 繭子

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
鹿児島県 屋久島
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
フィールド科学実習 (屋久島実習)
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 28 年 5 月 21 日 ~ 平成 28 年 5 月 27 日 (7 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学霊長類・野生動物リーディング大学院 PWS ハウス屋久島
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の実習は、サル班、シカ班、イチジク班の 3 つに分かれて英語で行われた。続けて行われるゲノム科学実習 (ゲノム実習) と共に、フィールドワークからラボワークまで幅広い調査研究手法を学ぶことを目的としている。私の参加したシカ班では、ヤクシカの社会性相互作用とミトコンドリアハプロタイプ型の比較と、非侵襲的試料による DNA 解析の正確性の検討の二つを主な目的として、個体の行動観察と DNA 解析のための糞サンプルの採取を行った。
ヤクシカ (<i>Cervus nippon yakushimae</i>) はニホンジカの亜種のひとつであり、今回実習を行った屋久島とその北西に位置する口永良部島にのみ生息している。ヤクシカの社会性行動についての研究はまだ報告がなく、実習という位置づけではあるが、初めての試みであった。
5 月 21 日 屋久島へ到着、西部林道にてヤクザル・ヤクシカ・植物を観察、ミーティング
朝早くから招聘者の方たちとともに伊丹空港へ向かった。慣れない搭乗手続きに関して英語でやり取りをするのは大変ではあったが、彼らのとても親切でオープンな姿勢のおかげですぐに打ち解けることができ、飛行機からの景色や屋久島での昼食を共に楽しんだ。午後は西部林道に向かい、ヤクザルやヤクシカ、屋久島に自生している植物を観察し、解説をしていただいた。リングツバキとツバキシギゾウムシの共進化についてのお話や、屋久島には多く生えているのにサルは全く食べない植物があるというお話を聞いた。

日本食を楽しむ

ヤクザルのグルーミング

5月22日 個体観察と糞採取方法のレクチャー、データ収集

学生は2人ずつ計3グループに分かれ、それぞれ講師の方についてもらって西部林道でヤクシカの行動観察を行った。2人のうち1人は、個体追跡サンプリングにて観察を行い、体勢と活動内容を2分ごとの瞬間サンプリング法で、社会交渉を連続サンプリング法で記録した。もう1人は追跡個体の糞を採取し、社会交渉が起こった場合には交渉相手を追跡して糞を採取した。近づきすぎると逃げられてしまい、遠すぎると見失ってしまうため、適度な距離と位置をつかむことが難しかった。また、テレメトリーをつけている個体はその色が個体識別の助けとなるが、つけていないオトナメスは識別に苦労した。午後は集めてきた糞の処理とデータ入力を行った。



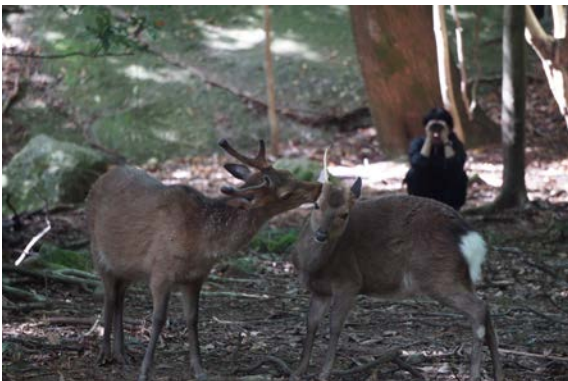
ヤクシカのオトナメス



テレメトリーをつけている個体

5月23日 データ収集、データまとめ

この日は1日フィールドに出て調査を行った。2時間を目安に追跡個体を変え、私の班は計3個体を追うことができた。袋角や枯角を持つオスを追跡することができ、反芻行動も観察できた。ニホンジカのオスは毎年春に角が抜け落ち、新しいものが生えてくる。オトナになるにつれ角は分枝が進んで大きくなり、抜け落ちる時期も早くなる。この時期のオスでは、昨年の角がすでに抜け落ちて袋角が生えている個体と、昨年の枯角をまだつけている個体、抜け落ちてまだ次の角が生えていない個体が見られる。



3突の袋角のオス(左)と片側が枯角のオス(右)



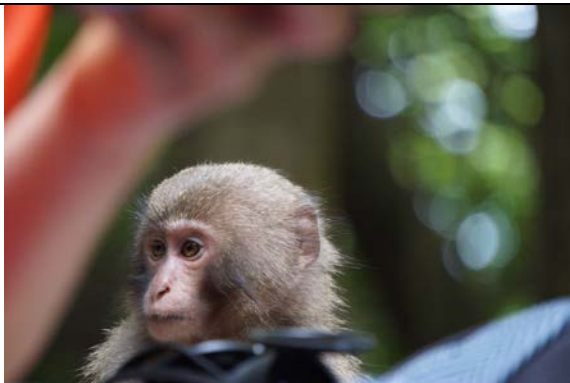
反芻の様子

5月24日 データ収集、データまとめ

前日と同様に1日フィールド調査を行った。この日に発見した個体はあまり人に馴れておらず、なかなか追跡を続けることができなかった。シカの進む方向を予測し、登り斜面の時には後ろからではなく先回りしながら追跡個体と同じ高度を保つことが重要だと教えていただいた。シカはかなり人馴れをしている個体と全くそうではない個体が同所的に生息しているように見え、とても興味深かった。群れのまとまりがないヤクシカでは個体ごとの経験の差が出やすいのだろうか。それともシカの行動範囲が狭いため、森の中を少し歩くだけで普段人と出会わないような個体に遭遇できたのだろうか。個体の性格も大いに関係していそうだと感じた。夜には、近くの浜でアカウミガメの産卵を観察することができた。浜に上がってくる母親はとても神経質で、穴を掘るのを途中でやめてしまう個体もいた。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



お弁当を狙いに来たコザル



アカウミガメの産卵

5月25日 発表準備、有志でテレメトリー体験

雨であったため、班全体としてのフィールド調査は行わず、発表準備を進めることとなった。私はソシオグラムという、集団内での個体間やグループ間の社会的つながりを表した図の作成を担当した。データの取り方や行動のカテゴリ分類基準がメンバーによって異なっていたので、それを統一するため白熱した議論が交わされた。複数人で調査を行う際には始めに統一したルールを定めることが重要だと学んだ。英語での議論はとても面白かった。

5月26日 発表準備、発表、BBQ

朝からスライド作成を行い、発表の分担を決めて発表練習を行った。招聘者の方から多くの英語の表現を教えていただいた。午後から発表が行われ、私はソシオグラムから読み取れるヤクシカの社会構造について担当した。いざ発表となると表現したい英語がなかなか出てこず、原稿が手放せない状況であったが、チームのメンバーに助けられ無事に発表を終えることができ、とても良い経験となった。ヤクザルの生息環境と腸内細菌との関係についてのサル班の発表と、イチジクの実の色（熟度）とイチジクコバチの寄生数の関係などについてのイチジク班の発表を聴講した。

5月27日 片付け、白谷雲水峡を観光、京都へ戻る

朝から施設の掃除を行い、白谷雲水峡へと向かった。とても苔が綺麗であった。



様々な形をしている苔



屋久杉の切り株

今後は引き続き行われるゲノム科学実習で今回収集したサンプルを用いて実験を行い、行動データとの関連をみる。その後、結果を班ごとにポスターにまとめ、国際シンポジウムにて発表を行う予定である。

6. その他 (特記事項など)

本実習はPWS リーディング大学院プログラムの支援のもと行われました。取りまとめいただきました半谷吾郎先生、シカ班を受け持ってくださいました揚妻直樹先生、揚妻芳美さま、西川真理さまをはじめ、多くのご指導とサポートをいただきました講師の皆さま、お世話になりました参加メンバーの皆さまに深く感謝いたします。